

モバイルビジネス研究会第4回会合（議事要旨）

1 日 時 平成19年3月19日(月) 13:00～15:00

2 場 所 総務省第1会議室

3 出席者

(1) 構成員（五十音順、敬称略）

齊藤座長、泉水座長代理、飯塚構成員、石渡構成員、北構成員、合田構成員、
佐藤構成員、高橋構成員、長谷川構成員、藤原構成員

(2) 総務省

谷口総務大臣政務官、森総合通信基盤局長、桜井電気通信事業部長、佐村総務課長、
鈴木事業政策課長、谷脇料金サービス課長、大橋データ通信課長、渡辺電気通信技
術システム課長、二宮料金サービス課企画官、白井料金サービス課課長補佐、柴崎
データ通信課課長補佐

4 議 題

(1) 研究会オブザーバからのプレゼンテーション③

- 1) 株式会社ウィルコム
- 2) 株式会社インフォニックス
- 3) フューチャーモバイル株式会社
- 4) 東日本旅客鉄道株式会社

(2) 自由討議

5 議事要旨

<各社からプレゼンテーション>

(構成員) プラットフォームを開放せよというご意見があった。ノキアにはプラットフォームがあるということだが、日本のメーカーにはそもそも開放するようなプラットフォームがあるのだろうか。メーカー各社はプラットフォームのような考え方ではなく、個別にものを作っているという話を聞くが、どうか。

(フューチャーモバイル) ノキアはE60というプラットフォームを持っていて、全世界的にスマートフォンを展開すると、色んなプログラムを載せてサービスの均一化が図れる。一方で日本はキャリア毎にサービスが均一化している。この質問に端的に答えると、あると思う。ドコモではDoJaというのを導入しているし、auもBREW上でKCPというプラットフォームを導入しており、キャリア毎にプラットフォームはある。メーカーは、プラットフォーム毎にアプリケーシ

ョンを作らないとならない。韓国ではそれを統一するためにW i P iという活動が始まった。私は日本標準を作ろうと欲しているのではなく、むしろ国際標準に準拠し、J a v aであろうが、B R E Wであろうが、それをオープンで利用できる環境を作って、その上で動作するアプリケーションをキャリアだけが認定するのではなく、第三者が認定するような環境を作れば色んなサービス提供が想起できるのではないかという提案。

(インフォニクス) キャリアと話をしてると、各社ともアプリケーションを開発させるインセンティブを与えるためにプラットフォームを構築していると伺っている。ただ、セキュリティの関係からノキアやウィンドウズモバイルよりも開放の度合いは狭い。また、基本的にはキャリアが載せるかどうかを最終決定することを担保したいというのが基本的姿勢。

(構成員) 日本のメーカーが作っているものと、ノキアが作っているものは本質的に違うという意見を耳にする。日本のメーカーは新機能を必要に応じてプラットフォームを改造して搭載しているから、プラットフォームになっていないという話を聞く。プラットフォームは安定していて意味があるのであって、メーカーが機能を追加するたびにプラットフォームを改造しなければならないのでは意味がない。日本のプラットフォームは標準化の対象にならないし、とても競争にならないという意見を聞いたことがある。いま現在あるものをベースにプラットフォーム化はできるのかというのが質問の趣旨。

(フューチャーモバイル) 今の観点は、ドコモが99年にiモードをスタートし、その上でデータ通信が発展を遂げて色んなサービスが載った。各社とも現在はソフトウェアの検証で大変ご苦労されている。しかし、海外メーカーはインターネット機能からオープンなので、そこにどんなサービスを提供するにしても、それはサービスプロバイダー(S P)側の責任ということになっている。つまり、キャリアが独自仕様を担保することによって、全機能を検証しなければならないから大変になっているという現状が質問のご指摘だと思う。先ほども、日本はキャリア毎にサービスが均一と申し上げたが、世界で競争していくためには、インターネットなど基本機能はオープンにして、世界中でサービス品質を一定にするようにしないと競争力は回復しないのではないか。さらに、日本はサービス技術が得意で、これからモバイルは更に伸びる分野なので、オープン化によって競争力をつけていければと思う。

(構成員) W-S I Mは非常に有効な仕組みだと思うが、携帯で同じようなものが登場しない要因は何か。

(ウィルコム) 技術的な側面として、P H Sは出力が小さいので端末が非常に小型であるという特徴がある。P H Sの消費電力が非常に少ないので携帯に先行して小型化できた。ただ、技術革新は進んでいるので、いずれ携帯でも登場してくるのではないか。特に海外などで登場してくるかと考えている。

(構成員) 私も個人的に利用しているが、全体に占めるW-S I Mの占める割合はどれくらいか。

(ウィルコム) 新規でいえばほぼ半々。累積については調べて別途回答したい。

- (構成員) インフォニックスさんが先ほど奨励金に関して、ユーザーに選択肢を与えるべきという話だったが、説明責任はどのように果たすべきか。また、投資回収モデルは複数登場して、ユーザーが選択に苦慮することが予想されるが、比較するルールを標準することが必要と考えるのか。
- (インフォニックス) 申し上げた説明責任というのは、消費者に対してというのはもちろん、第三者機関によるモニタリングが必要ではないかという趣旨。現状では料金プランなどはご指摘の通り、非常に複雑。通信全般についてモニタリング機能が必要ではないかと考えている。
- (構成員) インフォニックスさんが、先ほど、付加価値を作りにくいという説明だったが、なぜ付加価値が作りにくいのか。MNOのプラットフォームがオープン化されていないから作りにくいのか、それとも、ハードがMNOに依存していて作りにくいのか、説明していただきたい。
- (インフォニックス) 資料 P5 をご覧いただきたい。エンドユーザーが日本メーカー的 UI 端末を持ち、そこにカスタマイズされた専用のアプリを乗せる形になるので、そういう意味では、アプリケーションの自由度が付加価値の源泉になる。ただし、プッシュ型のサービスなどのネットワーク連動部分も必要になる。こういったものが両方絡みあって付加価値が創造できるものと考えている。
- (構成員) 今のご意見を聞くと、アプリケーションのインターフェイスのオープン化でどの程度解消されるのかが分からない。たとえば、プッシュサービスを入れるとなると独自の作り方をしているキャリアが多いと思うので、それまで含めてオープン化するということになる、まさに標準化に近いことになる。契約に基づいて1対1でオープンすべきということなのか、それとも標準化すべきということなのか、説明していただきたい。
- (インフォニックス) 理想論で言えば、全キャリアでオープン化してMVNOに限らず、アプリケーションで使えるのが全体的な産業発展の観点では良いと思う。ただ、現実的にはそれは遠いことは理解している。だから、1契約毎にオープンにしていくのも促進する意味があるので、両方ということになる。
- (構成員) フューチャーモバイル資料 P8 には端末のオープン化が書いてあるが、今の話をどうお考えか
- (フューチャーモバイル) プッシュ機能に着目するとGSMのSMSはプッシュ機能を持っているから、海外ではサーバーから端末に対してプッシュで話ができる。日本キャリア仕様では、シンクMLなどの同期ソフトはセキュリティの観点からオープンにしていない。アメリカでは、シンクMLなどはオープンであり、これはセキュリティ機能は自分で確保すべきという思想に基づいている。SMSがプッシュ機能を持っていることがGSMにおいて色んなサービスを想起できた要因のひとつである。その点、日本では出遅れ感が出てきているのだと思う。
- (構成員) オープン化すれば良いというものでもないと思う。MVNOが交渉のテーブルに乗れるかどうか分からないというのが、現状の問題の1つでもある。それと同時にオープン化されていけば自由に検討が進むということもあると思う。伺いたかったのはグレーゾーンが多すぎるのか、開示されていないからできな

いのか、どちらなのか伺いたかった。

- (フューチャーモバイル) 例えばインフォニックス資料 P5 を参照して説明すると、キャリアを挟んでサーバー側と端末側という話になるが、サーバー側に位置するMVNOは、中継網でサービス提供する事業者等に等しい。当然、地域網で直接サービスを提供するものよりも機能は当然に落ちる。しかし、オープン化を提案したのは、そういった手段があればサーバー側からでも端末を制御したり新サービスを想起したりできる可能性があるということの説明したかった。弊社資料のP8にもあるが、携帯電話上のアプリケーションからハードを制御することができるFMC連携で新たなサービスが想起できる可能性がある。そういったものをオープンにしてMVNOやサービスプロバイダーが新サービスを創れる環境を作らないと世界で競争していけないと考えている。
- (MVNO協議会) 当協議会にはコンテンツプロバイダー(CP)も多数いるが、携帯電話に搭載するアプリを公開してくれる企業とそうでない企業がいてケースバイケースで判断されていることが短期的な問題だと考える。より必要なのはオープン化とプラットフォーム化だと思う。例えば、今後3年間はこのプラットフォームでいくということが分からないと、開発側は投資回収の見通しができない。PCの世界ではプラットフォームを作っている会社は、毎年開発者会議のようなものを開いて、開発者に向けて技術仕様を公開して、特に重要な部分については将来へのロードマップを公開している。これがあるから安心して開発できるのだと思う。そういった意味でいまのオープン化の議論と土台としてのプラットフォームは安定していないと意味がないという議論はサービス開発にとっては重要。
- (構成員) フューチャーモバイル資料 P16 に制度的な具体的要望が出ているが、これを拝見して参入条件の明確化というところで、オープン化の他にもう少し具体的に項目があれば教えていただきたい。
- (フューチャーモバイル) 参入条件の明確化というのは、MVNOをやろうとした時どのくらいの料金になるかということが不明確である。海外の場合は一律になっている事例が多い。日本の場合はWin-Win-Winでキャリアと重ならないければ良いという考え方があるので、その辺を接続約款で明確化してもらえれば料金算定がしやすい。それと同時に、小さな企業がMVNOになる時に、足きりのようなものがあると、MVNOにはなかなか入れないので参入条件をオープンにして欲しいということ。
- (構成員) 競争条件については、個別交渉は大変なので、ある程度明確にオープンにされているとビジネスがしやすいということと理解した。オープン化については、ソフトウェアのオープン化共通化が必要なのは共通認識としてあるようだが、MVNOに参入する企業のビジネスモデルに応じてオープン化の対象にはバリエーションがあると考えて良いのか
- (フューチャーモバイル) MVNOは参入する企業によって千差万別あるのではないかと考えている。米国でも今ある端末を利用する企業から端末まで開発する企業までバリエーションがあるように、幅が広いと考えている。それと、オープン化

がどう関わるのかは整理ができていないが、基本的にはオープン化施策というのは国際競争力を向上させるような新サービス開発の為に、MVNOだけではなくSP等にも公開されることが必要なのではないかという趣旨で提案したものの。

(構成員) 各キャリアは今の意見についてどう考えるのか

(NTTドコモ) MVNOは千差万別なので、一律に条件を決めるのは難しい。また、欧州においても接続ではなく卸で条件が出ているということだが、我々も調べているが、どういう条件でやっているのか見あたらない。欧州でも個別交渉で決まっているものと認識している。端末のプラットフォームについてはセキュリティの問題が大きい。ただ、まったく公開していないのではなく、iモード端末についてもCPとの協議の中で使える機能を増やしてきている。

(KDDI) マーケットの付加価値を増大させるのはキャリアだけの力では限界があると考えている。しかし、まだキャリア間でプラットフォーム、技術の競争をしている最中であり、先ほどからGSMのようなプラットフォームが同質の世界の話がされているが、我々はドコモのPDCより少しでも付加価値を付けるためにCDMA2000を先行してやっていこうとしたように、ドコモと話し合っただけで共通化というような状況にはなかった。データ通信にしても我々はRev. Aという方式を進めていて、ドコモはHSDPAを進めている状況で、まだ技術競争が進行している最中であることをご理解いただきたい。端末の標準化については、我々はクアルコムチップに規定されているのでその範囲内ではできない。ただし逆に言えば、クアルコムチップの標準の上に乗ってソフトウェアも開発されている。一方でCPが参入する際に個々に開発するのでは問題があるので、BREWというミドルウェアを導入してCPが少しでも容易に開発できるように努力してきたと自負している。その他にメーカーがコストを削減するためにKCPというプラットフォームを作って、端末ソフトの共通化も進めていくということで、無駄なコスト削減に努力してきた。今後のことでは、ネガティブにやらないといっているわけではなく、既存の2000万ある加入者に影響を与えないことが最低の義務と思っているので、参入障壁を設けるのが趣旨ではない。

(ソフトバンクモバイル) MVNOの関係では複数の会社と交渉を進めているが、ある会社とは交渉が進んでいて、ある会社とは難航している。その違いは個々の条件がMVNOの考え方が多様で一律で解決できないという点にある。事例が数多く出てきて体系化できるようになることが必要。

(構成員) 技術革新の途中であるというのは、ある意味では当然だと思う。しかし、世の中の流れというものがある。従来携帯電話機の世界からコミュニケーションモジュールになって、モバイル機器の世界に移ろうとしている以上は、いつまでもゆっくりしては行かないのではないかと。JR東日本のSuicaを持っているが、当時は電子マネーとして流通させる意図は無かったと思う。思わぬところで状況が変わってきたら、それに迅速に対応することはとても重要なことだと思う。

- (JR東日本) 先生のご指摘の通り、最初は単純な鉄道チケットとして、それでもコアの鉄道業にはメリットがあると考えていた。ただ、そこで世の中で電子マネーが出てきていたので身近な鉄道と電子マネーを組み合わせることになった。とにかくお客様の声を聞いて一番便利なものを目指すというのが究極のソリューションだと思う。
- (構成員) 20世紀のITがバーチャルな世界のITだとすると、21世紀はリアル世界のITであることは間違いないことだと思う。モバイルというのはそのちょうど中間にあって、鉄道系のカードと決済は非常に親和性があるので一体として考えていくのは大切だと思う。
- (構成員) ネットワークは大きい方が消費者にとって利便性が高いし、競争力もつくのだと思う。さきほど、技術競争の途中だという話があったが、いくら技術が優れていてもネットワークとして拡大しなければ意味がない。そういう意味でどういう風に競争していくかが重要で、どのようにネットワークを拡大するかという競争が重要なのではないか。また、MVNOの参入条件の明確化の話で、MVNOガイドラインが改定されて、事業者間接続で接続義務が定められたが、それにもかかわらず、具体的な問題が発生するという意見だったと思う。それはいろんなサービスが確立していけば解決されると考えているのか、それとも新たな手法が必要と考えているのか。
- (MVNO協議会) 各キャリアからはネガティブではないというお話があった。各キャリアにお願いしたいのは、積極策に転じて欲しい。PCのプラットフォームを持つ会社が開発者会議を開いているように、MVNO促進会議のようなものを開いていただければ多くの企業が参加するのではないか。実際問題として、各キャリアは非常に巨大な企業で、参入する側は小さな企業が多いので、この業界の発展のためにも各キャリアに強力なリーダーシップを発揮してもらいたい。

以上